

平成29年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (乾 隆 幼稚園)

1	幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実 ・ 子どもたちが自らの興味に応じて、主体的に環境にかかわり、夢中になって遊ぶことを目指して保育室や園庭の環境を計画的に構成していく。また、研究保育やエピソード研修を通して幼児が夢中になって遊びこむ姿に着目し、環境構成や教師の援助について考え、幼児の姿を多角的に捉えながら幼児理解を深めていく。
	(取組結果を検証する) 各種指標 ・ アンケート項目 「楽しんで幼稚園に通っていますか」 「教職員は子ども一人一人に温かいかわりをしていますか」 ・ 研究保育やエピソード研究による子どもの内面理解と課題の明確化。
各種指標結果 (1回目)	・ 研究保育やエピソード研究を通して、幼児が夢中になって遊び込む姿を捉え検討する。 ・ アンケート結果 「楽しんで幼稚園に通っている」 A評価 72% B評価 28% 「幼稚園の環境は子どもが豊かな経験ができるよう整えられているか」 A評価 52% B評価 48% 「教職員は子ども一人一人に温かいかわりをしているか」 A評価 68% B評価 32%
自己評価	分析 (成果と課題) ・ 子どもが夢中になって遊び込む環境について、丁寧に改善を図ってきたことで、生活への主体性が伺える。 ・ 幼児が主体的に生活できるための、発達段階に応じた指導の在り方を話し合うことで、教師の意識が変容しつつある。 ・ 保護者アンケート結果は良い評価をいただいた。
	分析を踏まえた取組の改善 ・ 各学年の発達段階を考慮した環境構成や保育の工夫については課題が残る。 ・ アンケート項目「教職員は子ども一人一人に温かいかわりをしているか」では昨年度 A評価 82% に比べ、今年度は A評価 68% であった。少人数だから手厚いかかわりをしてもらえるとという保護者のイメージがある。園児数が増えたことで、刺激し合い、切磋琢磨できる環境こそが、子ども一人一人の成長に返っていくという目指す子ども像が実感できるよう、更に保育の充実に向け取組んでいく。
学校関係者	学校関係者による意見・支援策 ・ 園児数が増えたことはとても嬉しいことだ。運動会を参観して23人での年長組のリレーの迫力や子どもたちが刺激し合う様子に感動した。保護者の中には少人数が良いと思って入園したとか、大勢だと学級内が落ち着かないと言われる保護者もある。我々が先生方の教育の意義を色々な場で伝えるようにしていきたい。
評価	評価日 平成29年10月27日 評価者 学校運営協議会
各種指標結果 (2回目)	・ 幼児の姿の変容について (事例検討から) 各年齢に応じた発達を確認 ・ アンケート結果「楽しんで通っている」 A 70% B 30% 「環境が整っている」 A 68%

B 3 2 % 「教職員のかかわり」 A 8 6 % B 1 4 %		
自己評価	分析（成果と課題） ・「幼児の主体的な活動を通して学びに向かう力を探る～夢中になって遊び込む姿に着目して」の研究主題を保育の改善にし、園内研究とリンクしたことは教師に意識ができ、学びに向かう力の捉えや資質能力を見出すことは子どもの変容につながった。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・夢中になって遊ぶ姿から資質能力を探っていったが、更にエピソード研修の充実を図りながら次年度も研究を深め、保育の質の向上に努める。 ・夢中になって遊び込むことができる環境を、子どもの姿を的確に捉えながら計画的に取り組んでいけるよう、教師が共通に意識をもち保育をすすめる。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・どの子どもたちもいきいきとのびのびと遊びや生活を楽しんでいて素晴らしい。参観は今後もととても楽しみにしている。是非、子どもの姿を観にきたい。 ・先生方の保育の情熱や子ども一人一人を大切にしたかかわりを嬉しく思う。これからも公立幼稚園の教育の素晴らしさを我々も発信していきたい。	
	評価日 平成30年3月7日	評価者 学校運営協議会

2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む <u>幼小接続の視点</u>	
・ 隣接している小学校や近隣の保育園・小学校・中学校との交流を計画的に行い、幼児が自ら色々な人とかかわったり、一緒に活動したり遊んだりすることを通して、心情・意欲・態度など小学校以降の学習の土台となる学びに向かう力を育てていることを保育交流や保育参観、事後の話合いなどで具体的に伝え、滑らかな接続へと繋げていく。 ・ 就学する子どもについての情報共有や相互理解など積極的な連携を図る。 ・ 園内研究のテーマ「幼児の主体的な活動を通して学びに向かう力を探る～夢中になって遊びこむ姿に着目して～」に基づき、幼児期の遊びが小学校以降に育むべき資質・能力の基礎を総合的に育成していることをエピソードや研究保育を通して検証しまとめ、発信していく。	
（取組結果を検証する）各種指標 ・ 園内研修テーマに基づき、子どもの姿よりどんな姿が学びの向かう力なのかの検証 ・ 交流を通して、互いの子どもたちの成長にどう繋がっているかの検証 ・ 教員間による互いの教育理解がすすめられているか ・ アンケート項目 「地域の連携を生かした体験が保育に取り入れられていると思いますか」	
各種指標結果（1回目） ・ アンケート結果「地域の連携を活かした体験が保育に取り入れられているか」A評価56% B評価44% ・ 保幼小連携は年間計画に基づき、計画的に実施してきたことで、子どもたちの変容が伺えた。また、教師間の連携は少しずつではあるが、教育の意義と重要性を校種間で互いに理解しようという意識が伺える。更に積極的にすすめていく。	

自己評価	分析（成果と課題） ・小学校との連携は教師間の教育理解について、参観や研修の機会をもち、交流の必要性や重要性を園側から働きかけていくことが課題である。 ・地域との繋がりの中での参加行事や、日頃の生活で地域との密着が強いことが伺える。地域との繋がりを通し、経験や活動が子どもの成長や育ちにかえっていくことを実感されておられることが伺える。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・幼小の交流を通して、その必要性や育ちに繋がる大切さを互いの教員同士で話し合う機会を今後も積極的に作っていく。 ・地域の行事では地域の幼稚園として積極的に参加し、幼稚園の取組や教育的意義の発信に努めると共に地域を視野に入れた取組を更にすすめる。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学校との連携や交流は保護者としても有難いと思う。子どもたちが不安感をもたずに学校生活がすすめていけるよう、我々もできることは協力していきたい。	
	評価日 平成29年10月27日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） ・アンケート結果「地域との連携を活かした体験」Aたいへんそう思う72%そう思うB28% ・交流前と交流後の振り返り、互いの子どもたちの育ちの検証 ・教員間の話し合い、相互教育理解、教員の学び		
自己評価	分析（成果と課題） ・年間計画の全ては達成できなかったが、その要因を幼小で共通理解できたり、教員同士の話し込みが進んだことは小学校への滑らかな接続に繋がりつつある。 ・子どもたちの育ちの姿から、保護者もその大切さを理解している。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・研究の取組を通して小学校に、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識しながら発信し、幼小接続を進めていく。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・小学校校庭で保育がなされている場面があり、子どもが生き生きと活動していると、近隣の良さを感じる。これからも大切にしていって欲しい。	
	評価日 平成30年3月7日	評価者 学校運営協議会

3 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む

心と体・生活習慣

- ・ 教師と信頼関係を育みながら、安心安定した幼稚園生活を送る中で、基本的な生活習慣の確立を促す。また、段階を踏みながら子ども自身が必要性を感じて行い、自分のことが自分でできる心地よさや満足感を味わえるように援助する。そして、自立に向けて幼稚園

で大切にしていることを具体的に保護者にも発信し、共に生活習慣の確立を目指す。 ・ 異年齢の子ども同士のかかわりや刺激を大切にしながら、それぞれの発達段階に応じて、子ども自らが思わず体を動かしたくなるような環境や保育を充実させる。		
(取組結果を検証する) 各種指標 ・ 健康の領域を意識した保育計画の見直しと思わず体を動かしたくなる環境構成 ・ アンケート項目 「お子さんは幼稚園生活を通して心身共にたくましくなってきたと思いますか」 「お子さんは自分のことは自分でしようとしていますか」		
各種指標結果 (1回目) ・ アンケート結果「幼稚園生活を通して心身共にたくましくなってきたと思いますか」 A評価 % B評価 36 % ・ アンケート結果「お子さんは自分でしようとしていますか」 A評価 24 % B評価 68 % C評価 8 %		
自己評価	分析 (成果と課題) ・ 全員の保護者が園生活を通して心身の成長を感じていることが伺えた。しかし、自立面ではC評価もあり、子どもへの期待が高いことが伺える。 ・ 体を動かしたくなる環境作りは学年ごとに発達段階を考慮し、自園の立地条件を踏まえた見直しと工夫をしてきたことが要因といえる。 ・ 自立心への保護者の願いや期待は教員よりも大きい。幼稚園生活で目指す自立心と家庭生活での保護者の願いに違いがあることが伺えるので検証が必要である。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・ 子どもにとって、気持ちよく生活を送るために、子どもが必要感をもって生活習慣が定着していくよう、形にとらわれず心を通した指導していくことが必要である。 ・ 発達段階を考慮し、特に年長児では、主体的に生活をすすめていけるためには、人の話をしっかり落ち着いて聞き、考えて行動できるようになるための教師の援助や指導の工夫に努める。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ 保護者の方々は、自分の子どもだけでなく、周りの子どもにも声掛けをしたり、見守りながら育ち合われている。幼稚園のこの良さを活かして子どもたちが自立に向かうよう応援していきたい。	
	評価日	平成29年10月27日
	評価者	学校運営協議会
各種指標結果 (2回目) ・ 「心身ともにたくましくなってきた」 A評価 62 % B評価 38 % ・ 「自分のことは自分でする」 A評価 30 % B評価 60 % C評価 10 % ・ 5歳児でたくましさのA回答が増加		
自己評価	分析 (成果と課題) ・ 5歳児は運動的な活動の場面で、子ども同士の刺激や切磋琢磨している場面がみられた。研究主題の共通理解を図り、保育の改善を図ったことや、園児数が増えたことの要因も大きい。 ・ 5歳児保護者は運動会などの参観を通し子どもの成長を感じ評価している。育ち合い	

	やたくましが主体性や自立心の確立につながっていると感じている。 生活習慣の確立については個人差が大きい。保護者の意識が実態とは離れ、厳しい。	
	分析を踏まえた取組の改善 - 各学年ごとの成長の姿の捉えや発達の筋道を明らかにし、今後も環境構成や援助を計画的に行っていく。 - 各学年の発達に応じた、生活習慣の確立に向けて、家庭との連携を更に深め、指導していく。	
学校関係者	学校関係者による意見・支援策 - 子どもたちの自己肯定感が育っていることを感じる。教職員との信頼関係、友達同士、認め合う生活から培われていると思う。素晴らしい。大切に育ててほしい。 - 保護者の応援や支えになれることをしていくのでなんでもいって欲しい。	
評価	評価日 平成30年3月7日	評価者 学校運営協議会

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する 信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え - 一人一人の子どものありのままの姿を温かく受け止めながら教師との信頼関係を築き、安心安定した気持ちで幼稚園生活を過ごせるしっかりとした土台作りをする。その土台の上で幼児自身が自己肯定感を育んでいけるように遊びや活動を展開していく。 - 夢中になって遊びこむ中で自己を発揮したり、相手の思いを聞いたり知ったりして他者と折り合おうとする姿を十分に認めていく。また、子ども同士が思いを主張し合う場面を大切に、個々の発達段階に応じたかわりをしていく。 - 地域の行事に参加したり、交流したりすることで親しみを感じ、社会の一員として必要な公共心の芽生えを育む。	
（取組結果を検証する）各種指標 - 子ども同士、教師と子どもたちとの信頼関係づくり - アンケート項目 「お子さんは楽しんで幼稚園に通っていますか」 「お子さんは家族、先生、友達など周りの人に親しみをもって挨拶していますか」 「お子さんは幼稚園での出来事を話したり、自分の思いや考えを人に伝えようとしますか」	
各種指標結果（1回目） - アンケート結果「楽しんで幼稚園に通っていますか」 A評価72% B評価28% - アンケート結果「家族、友達、先生など周りの人に親しみをもって挨拶していますか」 A評価34% B評価58% C評価8% - アンケート結果「幼稚園での出来事を話したり、自分の思いや考えを人に伝えようとしますか」 A評価44% B評価50% C評価6%	
自己評価	分析（成果と課題） - 幼稚園に通うことを全員が楽しいと感じている。教師との信頼関係が土台となっている。 - 周りに親しみを感じていても、年少児は特に挨拶ができない子どももいるが、内面を理解しながら温かく見守ることが大切である。 - 年長児は自分の考えや思いを話したり、人の思いを受け入れたりすることで、遊びや生活に深まりがみられることが事例の分析からも伺えた。協同的な学びと捉えられる。

	分析を踏まえた取組の改善 ・子ども一人一人が意欲的に遊びや生活をすすめ、友達や先生と信頼関係を深めていけるよう、今後も発達段階を踏まえながら、学びに向かう姿を捉え、どんな力が育っていくかを園内研究とリンクさせて探っていく。 ・子どもが自分に自信をもち、学級内で認め合いができるよう、個々が自己肯定感をもって自分も人も大切にできるような学級経営に努める。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・この地域の子どもは遠慮がちで優しく、発言する時も少し控えめで優しい傾向がある。自分の意見を言ったり、相手の思いを聞いたりしながら互いに育ち合ってほしいものだ。	
	評価日 平成29年10月27日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） ・「周りの人への親しみ」 A評価32% B評価58% C評価8% D評価2% ・「自分の思いや考えを人に伝えているか」 A評価30% B評価62% C評価8% ・園内研究、エピソード研究の分析結果		
自己評価	分析（成果と課題） ・5歳児は後期に入っていくと友達とめあてに向かい、やり遂げようとする経験が深まることで折り合いの気持ちが育ってきていることがわかった。 ・3歳児は安定感をもとに人にかかわっていく土台をしっかりと見極め指導していくことが必要である。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・子どもが主体的に取り組み、楽しい経験が友達と共有し、更に充実した活動に繋がっていくような援助や環境構成の在り方を心がけていく。 ・保護者一人一人が自分の子どもだけでなく、園全体でみんなで育ち合っていこうという園の雰囲気が今後も大切にされ、保護者同士が繋がっていくような、園側の働きかけや啓発が必要である。そのことを子どもの成長へ返していく。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・保護者間の良い雰囲気が乾隆幼稚園の強みであり、良い文化として継承されている。保護者のコミュニティを広げていって欲しい。子ども同士の育ちにもつながっていくだろう。	
	評価日 平成30年3月7日	評価者 学校運営協議会

園独自の項目
・預かり保育の拡充を図る。 指導計画の見直し・作成を行い、発達段階に考慮したり、地域の伝統文化の継承に向けての体験ができるよう工夫したりする。 ボランティアの配置に努め、様々な体験ができるようにしたり、教員間連携に努める。

・子育て支援の推進 教育相談 さくらんぼ組の充実を図る。 月たより地域、保護者に配布し周知徹底し、参加者を増やし、入園に繋げる。 地域子育て支援機関との連携を更に図る。 園庭開放の周知に努め、地域の子どもたちに遊び場を提供すると共に、園の様子を見てもらったり、教育理解に繋げる。 ・情報発信の充実を図る。 ホームページの毎日更新を行い、教育内容の発信に努める。	
(取組結果を検証する) 各種指標 ・預かり保育の参加人数 ・教育相談の参加人数、園庭開放の参加人数 ・アンケート項目 「お子さんは楽しんで預かり保育に参加していますか」 「幼稚園たよりやホームページで幼稚園の遊びの様子や子どもの様子がわかりますか」	
各種指標結果 (1回目) ・アンケート評価「お子さんは楽しんで預かり保育に参加していますか」 A評価 60% B評価 34% C評価 6% ・アンケート評価「幼稚園たよりやホームページで幼稚園、子どもの様子がわかりますか」 A評価 50% B評価 48% C評価 2%	
自己評価	分析 (成果と課題) ・預かり保育の担当教員と子どもたちとの信頼関係が深まってきていることや、担任との連携ができていることが要因である。 ・イベントや催しの時はほぼ全員が参加していて保護者のニーズが伺える。 ・地域に公園がないので、園庭開放を活用している保護者が多く、とても喜んでおられる。地域に根差した幼稚園として役割を果たしてる。 ・ホームページのアクセス数が増えている。子どもの様子を楽しみにしている保護者が殆どである。
	分析を踏まえた取組の改善 ・預かり保育の担当教員と担任とが、日々、連絡を取り合いながら、子どもが安定して参加できるよう、取り組んできたことを今後も引き続き丁寧にしていく。 ・更新内容の精査を心掛け、何を大切に教育を進めているかを理解してもらえるように努める。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・預かり保育では今後もできるだけ協力していきたいと思う。絵本ボランティアの呼びかけをしていく。 ・地域として幼稚園を応援していきたいといつも思っている。地域に幼稚園便りを配布し、幼稚園の様子が分かってもらえるように地域に働きかけてみてはどうか。各町内会長さんへ協力依頼をして全面的に協力する。
	評価日 平成29年10月27日 評価者 学校運営協議会
各種指標結果 (2回目) ・「楽しんで預かり保育に参加」 A評価 62% B評価 20% C評価 18% ・「幼稚園だよりやホームページで子どもの様子がわかりますか」 A評価 68% B評価 30% C評価 2% ・預かり保育参加人数 短時間利用者延べ2200名 長時間利用者延べ624名 ・教育相談さくらんぼ組参加人数延べ638回 登録数78名 回数73回 近隣保育所、	

児童館と共催事業実施 保育終了後の園庭開放の利用状況、 次年度の入園者数と保護者の就労状況		
自己評価	分析（成果と課題） ・ホームページは毎日更新を楽しみにされている。 ・3歳児の短時間預かりが増加。7月からの開始は好評。3歳児の長時間利用者も増えつつある。 ・預かり保育の取組が地域に周知され始め、問い合わせが多い。就労しながら幼稚園教育を受けさせたいと思う保護者の意識が伺える。 ・園庭開放の利用者が増えたことで、保護者同士のかかわりやつながりも深まった。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・幼稚園が地域の子育て支援のセンターとして、その役割を今後も担っていく意識を全教職員で共有していく。 ・保護者同士の結びつきや雰囲気の良いが保護者の安定感になり、子育てをしていく支えになっていくようにしていく。 ・保護者が子育ての楽しさや喜びが味わえる市立幼稚園であるという良さが保護者から発信してもらえ、園児獲得にもつながっていくようにする。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・入園者が増えることは預かり保育が地域に周知されてきたのではないかと。就労する保護者が益々増えていくことを見据え、園行事の見直しや精選が必要になってくるのではないだろうか。園の思いをしっかりと伝え、今まで大切にしてきたことも大事にしながら進めていって欲しい。地域の応援団として今後も協力する。 ・預かり保育では子どもたちの体験の幅を広げる内容なので、今後も続けてほしい。	
	評価日 平成30年3月7日	評価者 学校運営協議会